



JCLIFE

2016年
11月号



一般社団法人尾道青年会議所 <http://www.ojc.or.jp/> 〒722-0035 尾道市土堂2-10-3 尾道商工会議所ビル3F
TEL:0848-20-1110 FAX:0848-20-1112 E-mail:ojc@urban.ne.jp Facebook: <http://www.facebook.com/isojcnw>

10月例会

10月14日、10月例会テーマ

「期待をこえる感動を」と題し、尾道青年会議所がどうすれば地域から愛され必要とされる団体となるのか、どうしていけば地域から愛される団体となるのか。さらに皆様の企業活動でも非常に参考にできるとい

ところから、島根県に本社がある、島根電工株式会社代表取締役社長 荒根恭司氏をお招きし、まちから愛される企業の考え方、方法を講演頂きました。

私は4年程前に荒木恭司氏の講演を受けて非常に目からウロコでした。期待を超える感動を生むことができるのは相手が思う以上に相手の困っていることをなげなく解決していけばその感動は生まれます。

普通に感動するだけであれば、それは直ぐに記憶の中から消えてしまいが、期待を超えればリピーターが非常に増えて地域から愛されるということでした。

そのことがきっかけで、一番初めに委員会メンバーに出した年間スケジュールにも例会は「島根電工の社長をお呼びしたい!」と伝えていました。それが現実



となり非常に満足しております。

当日の講演の内容は島根電工の実例集を用いて会社の成功例を説明してくださいました。

電気工事に関係していても、分かり易い説明で私自身もしっかり理解できました。

講演内容を制限しないことを考え、導入と締め落としどころのみお伝えし後は社長にお任せしていました。すると、他でも聞いたことのある、「事業を立ち上げていつまでも抱えてはいけない、他の団体に引き継いで自分達は新たなことを探す」

とか、「企業の最大の地域貢献は雇用」だとか他の講演でも聞いたことのある内容ができて、やっぱりそうだったのか!と改めて認識できました。

例会当日、当委員会は100%出席で、メンバー全員来てくれました。講演後の講師との懇親会では荒木社長の話から川原副委員長はメモを取り出す二面も!!始めてみま

がきてしまい、非常に身になる例会と懇親会でした。皆様からも青年会議所活動にも企業活動にも非常に為になる講演でした。お言葉を頂き、本例会はタイトルどおりに「期待をこえる感動を!」生むことができたと感じました。

当委員会は、あと短い期間で事業が2つありますが、委員会も「期待をこえる感動を!!」皆様に伝えていけるように邁進してまいります。

(記事: 会員地域交流委員会委員長 山本慎也)



日本で一番子どもが元気なまち

10月15日(土)にびんご運動公園サプアリーナ及び視聴覚室にて、「日本で一番子どもが元気なまち」と題して事業を開催致しました。この事業は、現代の子ども達が運動量の不足により、運動器が正常に動かない疾患である「ロコモティブシンドローム」にかかる子どもが全国的に増えている現状を改善することを目的としたものです。

午前9時より、主に小学生の子ども達とその保護者の方を対象に、子ども達の体にどのような症状が起きているのかを知っていただき、その後親子で一緒に出来る運動の提案や、子ども達のロコモの解消を目的に開発された「スポーツテンカ」を実際に体験していただきました。また、午後の部として、小学校・中学校の教職員の方、スポーツの指導をされている方を対象に、子ども達の体の健全な成長の為にどのような指導が必要であるかを学んでいただきました。

多くの方に「参加いただき、皆様が子ども達の体作りについて真剣に考えていただくことができたのではないかと思います。当日ご参加いただきました皆様、そしてメンバーの皆様、本当にありがとうございました。」

(記事: まちづくり推進委員会委員長 中司昌克)



ロボットと人の関わり

テーマ「ロボットと人の関わり」これからのロボット産業の現状と今後の展望」の講演会を、(株)NTTデータ経営研究所事業コンサルティングユニット産業戦略グループ長三治信一朗様をお呼びして行いました。これからの人材不足の解消の一つとして、ロボットを活用した事例等話を頂きました。参加して頂いた方々にも、今後の社会で、どの様にロボットが関わってくるか学べたと思います。

(記事: 未来ビジョン委員会委員長 中谷純也)



定款運営規程 調査研究

この度11月合同委員会にて定款運営規程の歴史とその意味合いなど、普段接することの少ないであろう事を再確認し、メンバーの皆さんが青年会議所活動を行う一助となったと思います。これからも青年会議所活動と奉仕・修練・友情そして活動指針をもとに活動して行きたいものです。

(記事：村上成司)



ベツチャー祭

11月1日(火)～3日(木)にかけて尾道を代表する秋祭りベツチャー祭が開催されました。



多くのJCメンバーが小太鼓、大太鼓また神輿の担ぎ手として参加しました。1日の前夜祭の疲労を抱えながら、3日は早朝6時に集合し参加者全員で参拝し、午前7時に宮を出発。当日は天候にも恵まれて太鼓、神輿、三鬼神【ベタ・シヨキソバ】と獅子が尾道市内を練り歩きました。午前中の見せ場、しまなみ交流館前広場では多くの観客の中で三鬼神によるベツチャー

太鼓を披露され大盛況でした。午後からさらにテンションが上がり、祭りの楽しさを感じながら宮まで練り歩きました。

祭りの最後は見せ場である二宮神社境内への階段でベツチャー太鼓に続き、境内での神輿を回す様子は鳥肌が立つ圧巻の一言でした。

お祭り終了後には社務所にて神社関係者及び他団体の皆様方とも親交が深めることができ最高のお祭りを体験できました。

今回は面に入ることが出来ず非常に残念でしたが、次回にチャンスが回ってくることを祈りながら来年のこの日を楽しみに待ちたいと思います。

最後に参加されたメンバーの皆様、本当にお疲れ様でした。

(記事：宮地晃二郎)

会員拡大果 推進会議結 新入会員 10名

拡大研修委員会、委員長は今岡です。11月8日に行われました理事会にて、新入会員10名の正式入会が承認されました。新たに10名の若い力が加わります。皆様温かくお迎え頂ければありがたいと思います。

去年の10月にスタートした会員拡大推進会議は計10回実施し、その中で多くの拡大情報を抽出することができました。基本である拡大候補者への訪問を繰り返して、仮入会員としては一時17名に達することができました。仮入会期中に一人一人と話しをする中でそれぞれの状況から入会できない方もいらつしやいました。ただ次年度以降の入会希望者も数名いらつしやいます。結果としてはまだまだという結果となりましたが、今回正式入会される10名は本当に意識の高い方ばかりです。これから仲間になれることを楽しみに感じています。

11月16日を以て尾道青年会議所の一員になる10名に対し、今後お声掛けやフォローを頂ければありがたいと思います。宜しくお願致します！

(記事：拡大研修委員会委員長 今岡正英)

歯科医師
鍋島 巧
コラム

歯は命

始めに、前回の内容に少し訂正をさせていただきます。検診と別日に治療を開始した場合、初診料がかかるような記載になっていましたが、初診料ではなく再診料でした。訂正させていただきます。さて、今回は、同じ甘いものでも砂糖よりキシリトールが何故ムシ菌になりにくいのかをお話しします。まず、ムシ菌の成り立ちですが、原因はムシ菌と砂糖の主成分であるシヨ糖(シユクロース)です。シヨ糖が口の中に入ると分解され、シヨ糖はブドウ糖(グルコース)と果糖(フルクトース)に分解されます。ムシ菌はグルコースからグルカン、フルクトースから乳酸を作り出します。グルカンはネバネバした物質で、菌にくっついて歯垢の基になります。そこに酸性の物質である乳酸がくっついて歯を溶かしていきます。グルカンだけでは歯を溶かしませんし、乳酸はあつたとしても、菌にくっつかずにすぐに流れてしまえば、大きな問題はありません。簡単にいうと、ブドウ糖(グルコース)と果糖(フルクトース)が一掃しないとムシ菌にはなりにくいという事になります。そこで、キシリトールですが、この甘味料は、マルチツールという成分で、ムシ菌は分解したりしません。ですから、乳酸もグルカンも作り出しませんから虫菌になりません。また、果物の甘みはフルクトースですから果物だけ食べた場合は虫菌になりにくいと考えられます。他に、蜂蜜はマルトースが主成分で、ムシ菌に余り関与しませんので、虫菌になりにくい事が予想されます。ただ、蜂蜜は製品によつて、砂糖が添加されているかもしれませんので、注意が必要です。ということで、虫菌を予防するには、依然お話ししたように、砂糖(シヨ糖)の摂取をコントロールすることが大切になります。(記事：鍋島巧)

編集後記

日が暮れるのが早くなり、朝晩とても寒くなりました。北海道では既に雪が降ったとの事でした。本年度もあと1月半となり、10名の卒業生も色々な思い出を感じながら過ごされているのではないのでしょうか。卒業生スピーチも今回が最後となりましたが、卒業する身としましてはやはり寂しさを感じます。さあ、11月も半分終わりました。今年は12月も事業があります。最後まで気を引き締めて行きましょう。(記事：村上成司)